



古今録畫

目利

三



古今活畫

△大和物大株。此は目奥穴の上下葉面葉裏より折る

い定らば。も作はらむと同物。或は葛種。逆を折る

透切葉裏あはる。中心は株形像をよ地はらりて。尚也

葉面はらむ。の極よ一極ありし。但しうぬわの園の字一極也

種もはら下。極下也。作はらむ。切先をよ。大切先。極切

先。ては。是は。傳云。保名。お前。なり。し。中切先。て。ま。へ

一夫園 夫は天の字なり 夫の字は字なり 夫は天の字なり 夫の字は字なり

地 地は天の字なり 地は天の字なり 地は天の字なり 地は天の字なり

あ あは天の字なり あは天の字なり あは天の字なり あは天の字なり

佛 佛は天の字なり 佛は天の字なり 佛は天の字なり 佛は天の字なり

あつた地くさつた也

一真者 ト上 見え此

保昌の師 ちの刀の塗をひきひらく唐

はなれ相目 ちのめ

地ちうちうちうめふ母ちうちうち

しち刀と刀と先乃母とやちうちむふ他刀ハサウと

あつたのやちうちのあつたはなれはなれはなれはなれ

ちうちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

よのちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

一貞信 貞宗お忍うりて後し患いごとく新先ちち切

忠の株を角あつて固き忠の株やちちちち

一國定 ト上 見え此 ちの刀乃塗株うちち唐塗一船板目わ

けちちち地ちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

湯をちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ひちち株のちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

株乃ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

のちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

てちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

くちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

と心宗お侍乃何とちちちちちちちちちちちちちちちち

ちち自おちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

國定ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち

津のふりまきり也別也音船の太和河内播磨高徳
会方にて領するふりてが河内系物とつて也

一色氏 太皇太后相形無氏も同。なれどもつて同姓に

但みあらむやとて佛海。牙母とやきつるはが

地多ひつて懸つて下しき通ひのりう切らとわら

忠棟あり格やとて或は格下ひつてつてあり

一昔光太刀のまき通刀の格くどがれよ勝あつて他也

垂みあえの忠の棟ろの丸一先細よ片山格やと

二字銘よつめておサと家室印小細がは也

△系物と太細太刀の漆系つて友のふ中末問は

修りして唐中切先中も懸格同地とありとあり

きそ地つひよあまると味ありみあらめわつてみ

して佛おけ乱ぬの備ありつてと葉と入を

り大とまふつるにえは也やうしの内垂みあり

ゆりサあり棟よ傷をと梅も物也枕字の毛

めふらつらとて剣を先このととぐん梅の先つ

まやうんがはととととあ(格)と忠太刀の

つて目貫元と刀の所存て目貫元下よ流打

絶へ格下格やととと也但宣利おとすつらひや

とと也忠とたの平山飛棟の大隅角也刀の漆あり

あつらつとととと棟あり

一色行 中上 系物と太刀の漆ありと大隅梅と

色落中一切先も中も能指目し海も地も色もあは
ましく見えてぶふあま色あり母の解をひらくやま
しと獨本一尺ざり乱れもやまをぶく色もあま二
すづり又みかづりともてはとやまをいへるみかづり
ましにやまのぬきもあまらるるはくしやう入てをる
能あえさうづりくしと佛也切先の肉とあまり
やま様は湯を乃あましありと色もあまのあま湯を
ありと色もあま湯もあまあり色乃ひくふ國もあ
ら勢で得すらと先へあまやうもさる也様とさる
も色しは様は然も二字國行は公國行はらるるあり
大湯也めはらるるを力の細く長くこすといへる小湯也

中
一國後 はる比 未達を而を力の並父は能似る。様は
母は麻子のしとあり丁子母ありと先へ色もあまに
是と入てやくはとまて丁子とやまらるるありと上丁
子大ぶこ色もあまのしと佛もあま。丁子母も
を力の細か一文子ありと先へあまし。但もあま
わやう也。能指目して地もつとありと乃色もあま
てひくやまぎらる地もね也。忠様肉様は能指目其元の下
り二字打也。又未國後公の他はよまの字をかて
打とま。又別人をいへば他もを力の深きひらく。唐もあ
ゆく作也。色もあまのふらふサのけとありと色もあまの
あまらるる。大湯也打のありと色もあまのあまは様と

志のさびり。唐中。さなる極目地。白ありあてあり。松
 ちやうりる色あり。のま色。極目。さやう。よんえり。切
 先中勝。一尺。さりの肉。よみ。うた。の尖。うると。極。は。あ
 多。先。の。又。圓。行。よう。く。心。り。極。は。湯。毛。と。極。圓
 幼。も。後。地。は。極。目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 地。行。は。極。目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。一。尺。の。見。が。う。だ
 同。時。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 う。れ。り。是。極。目。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 小。大。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 一。尺。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま

少。り。大。の。極。目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 之。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 之。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 打。也。同。極。目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 遠。り。す。り。あり
 一。尺。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 ま。や。り。地。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 是。と。今。も。極。目。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま
 かくし。地。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま。の。ま。う。ま。て。の。あ。け。ま

家とていふはなり。所は少曲邊及縁也とてせ丸一

一五國 名をうけり ち力乃海ありとて。志のまじり。一船極目 船極目

こゆ是唐とてし海。地ち少あつめてつあつてつあつて

あつてよめさたり。ふ乱みは沸くうくあり。み色み

あつてこと記ひの船也。本極目してたつふ高物と

見えそりし

一兼永 名層比を國が子 ち力乃海。父は能いなり。船地みま

とんくすてし。父を國は同。位位を父よとてふ。ち力

ち力も力を極どうく也

一國永 下上 目比を國う二男 ち力乃海。後少海。定利よいなり。船地

ちの船なり。船極目ありてせあつめあつめ地ち也。船地

ち力とていふはなり。所は少曲邊及縁也とてせ丸一

一五國 名をうけり ち力乃海ありとて。志のまじり。一船極目

こゆ是唐とてし海。地ち少あつめてつあつてつあつて

あつてよめさたり。ふ乱みは沸くうくあり。み色み

あつてこと記ひの船也。本極目してたつふ高物と

見えそりし

一兼永 名層比を國が子 ち力乃海。父は能いなり。船地みま

とんくすてし。父を國は同。位位を父よとてふ。ち力

ち力も力を極どうく也

一國永 下上 目比を國う二男 ち力乃海。後少海。定利よいなり。船地

ちの船なり。船極目ありてせあつめあつめ地ち也。船地

珠二字正の字まの也

一長元 もろき ち力の清うごらづとに結ひろく切先
はまやと也。小乱又ハ沖乱とて梅。是のひらく佛をり
香液。ゆあとい所の整あり

△雲田は物の志神。ち力の清めそとせう。飛松目
こまやうあて地ぐね賢くこらあらわりの地を
く。ぬ色白くして佛多し。ひらぬとやとまはし。座
中。ぬ乱。結。結。二重ぬと大ぬやと也。座の
よまひサ神し。切物乃積海。梳字。ととそびり
ふたねりそ。梅。ぬく海く先つ。まやと也。そび
乃先ふつ。あひあり。刀。先。ぬれあて。二梅也。志を

棟角ふあひの角あて。木角のつと。折の横先平正
形。あひのそとと。結。結。ち力のあつ。帯。表。目。黄
元の上。志のさへ。せえ。打。刀。は。掃。り。て。目。黄。元。志
下に打。ぬ。あ。け。敷。忠。也。

一團友 元藤此 ち力の清めそと切先つ。まやとに。ぬ。ね。香
香。海。く。飛。松。目。は。あ。ま。と。海。や。也。地。を。あ。と。ひ。ら。と。も
て。さ。え。ら。り。ち。力。乃。清。め。反。想。あ。り。も。梅。中。と。も。志。の。さ
と。あ。せ。ら。う。ぬ。色。白。く。そ。と。ま。め。ふ。あ。と。て。賢。く。刀。を。り
佛。折。棟。は。湯。ま。と。梅。也。ち。力。乃。清。め。の。あ。つ。と。ま。や
と。ぬ。が。ら。と。せ。う。の。け。と。二。重。の。ぬ。あ。り。刀。は。あ。ら。ふ。座。也
かりしう。は。く。し。を。び。つ。ま。み。ぐ。ぬ。き。あ。り。て。い。は。し。座

一園光 中上 弘安比

たりの湯栗田にありまて用で船板目物
しこまや也移せしころと也地をこぞつくとまき細
又と梅こまきいり下しと沸わりの然と母に打是お助
下らふ心あくと見しころた力乃移たり

一老光 松平忠房 建治比

た力れ海やそく志のぶさるるせざり他
也切先もた力れお船よつきてるき也げ他板目乃
船ありしと力ぬるより地をのすもそ板目すか
らと棟乃方の板目也とるあまお板目乃りくらと
板目れ船の固ふらぬ乃てくらりりわりの又船層より
船しわりの地をさまきく入て老よびくら色あり細
虫又わりの細のこも又と梅た力よの地耐ありて沸

わく見後しあかこまきつらみ色向く書乃じしげ他
乃と力いまれ也力乃海の自然落さともあま是大船か
さねとわつくさへ何ともあく尖ふらよ他也よしし
うらぐむありとと棟又高棟もわりのぬらるる勝本と
サボウのやよよとて先へ虫又よらくらとそと細さ
やうふやとそ先乃強く足ゆらやうふ梅也好とや
ぬさるらふやよよとすると也船の也がりのあくまが
トのいもあも也ぢぢ梅りくらふらがりし乃ありを
このまがらふもふらりともそのいふもやよよが
くもさつらふらびがりしもありよまはむらふらりし梅
也意乃あまもすはわりの他海老也よすはあ

一國總五後比

一國總五後比 其方此邊に細目にあく切つてま
なると志のどさひらく唐をあり頼極目ありて地
きらわりの地を置だくと三尺の土力ありて細中
一尺よりりり龍目に極也母よりけりて唐をなげり
一勝ありてさむいすむりとりとありてさむい
乃母とありてやとありて細さありてさむいり
みぞより地へありと極のどくやとありてさむい
おもやうくともいすむりとりとありてさむい
て一方の樹さえとて一方の地ありてさむい
のひりめくともいすむりとりとありてさむい
てさむいやきへありてさむいとりとありてさむい

妻と梅徳女とやとありてさむいとりとありてさむい
所く也大略徳千等とありてさむいとりとありてさむい
教とありてさむいとりとありてさむいとりとありてさむい
一類實 家則ありてさむいとりとありてさむい

一類實 家則ありてさむいとりとありてさむい
つとく若光の徳撰新株園先年山銘の若乃字母
那ありてさむいとりとありてさむいとりとありてさむい
研海小乱ありてさむいとりとありてさむいとりとありてさむい
らんけいありてさむいとりとありてさむいとりとありてさむい

△徳余の天祥を刃の安撫をて切てのびきり

福せどく唐あうと搦しわりの地をひびくさたあひ
 板板目ひりくみまきそ沸あしびり乱とあ
 ちくがりしまとぬむと焼標は湯をわりの焼
 角あてたがのちし剣をたけまきとあひひり
 まてとがゆ。剣よりまきと焼つるたがゆ。梅のこ
 あのがとまきとけうこのがむはまきと唐あまを
 うんだあ地ひりらうらうらひり切えの形を
 うまひのちの掃流又切ぬ力に擣ひりてあま
 と搦のま唐し思の事き流又搦下搦の角あま
 とわりのまきとけうのちり或は片山形記のち力あま
 節表目其穴の下筋あけて斬力搦表目其穴の下

いりのちり

一國宗 唐伝 ち力乃海もくまへりそ切えつごまわりの
 也唐あうし板板目地をまきとけうて唐あまの地腰
 ちりくみまきとぬむのちと焼と唐あまの地腰
 湯を焼入るち力あまの地腰の沸こまきとあひひり
 こわとめあまのちりやうらうらひり同表目わりのちり
 也とちりあまのちりあまのちりあまのちりあまのちり
 ちりあまのちりあまのちりあまのちりあまのちり
 丁子乱とまきと焼とあひひりあまのちりあまのちり
 よあまのちりあまのちりあまのちりあまのちり
 ちりあまのちり

一團光 中上 曆仁比 たるりの塗りそく。殆たりく唐ふう切され
はまやうに細虫と梅さた板目めでいっせに海
くるる膚也 みい 地をそくあてて上まめ也切を乃内
かりしのみりごぼやう小梅。くりとみどり梅のみを
あまめをこいんてどうもやうに白。刺梵字 タグランド 樋
はくもあまめをすも也。さりの刀にまも也。刀にまも徳勝の
うさぐも也。ごうのハ た 焼る系のやうなる飛ぬよまど
つしてわり大略うぼりては梅さるはさよまじししく
やまあり。若者 ゴウ ぶらういとかたがね漆。ゆきして唐
より中へうかりし が の海を渡るよかりとよのまもを
やく ぶ 雲のうりわく切るおり。患ハ株あく横須。漆

一團光 中上 曆仁比 たるりの塗りそく。殆たりく唐ふう切され
はまやうに細虫と梅さた板目めでいっせに海
くるる膚也 みい 地をそくあてて上まめ也切を乃内
かりしのみりごぼやう小梅。くりとみどり梅のみを
あまめをこいんてどうもやうに白。刺梵字 タグランド 樋
はくもあまめをすも也。さりの刀にまも也。刀にまも徳勝の
うさぐも也。ごうのハ た 焼る系のやうなる飛ぬよまど
つしてわり大略うぼりては梅さるはさよまじししく
やまあり。若者 ゴウ ぶらういとかたがね漆。ゆきして唐
より中へうかりし が の海を渡るよかりとよのまもを
やく ぶ 雲のうりわく切るおり。患ハ株あく横須。漆

一團光 中上 曆仁比 たるりの塗りそく。殆たりく唐ふう切され

はまやうに細虫と梅さた板目めでいっせに海

くるる膚也 みい 地をそくあてて上まめ也切を乃内

かりしのみりごぼやう小梅。くりとみどり梅のみを

あまめをこいんてどうもやうに白。刺梵字 タグランド 樋

はくもあまめをすも也。さりの刀にまも也。刀にまも徳勝の

うさぐも也。ごうのハ た 焼る系のやうなる飛ぬよまど

つしてわり大略うぼりては梅さるはさよまじししく

やまあり。若者 ゴウ ぶらういとかたがね漆。ゆきして唐

より中へうかりし が の海を渡るよかりとよのまもを

やく ぶ 雲のうりわく切るおり。患ハ株あく横須。漆

一行光 中上 天永比 ちりの染りそめふましく切えつごまやと也
 唐海 雜板目めやたさるるりくわつと地多あま
 めての思ひありさうありといふはたれみ成を成を
 悩乱みたり地よむとやくとありと細みふのこれと
 あしありとやうありと地ありがら白けきたまき
 とくありとちりの刃やうめはかひつごまあり
 廣虫みとけりかじりのありサれと三株乃志 まんひら
 少地ひのほは 剣梅切地あり大進坊り他とさ地思の
 もちち力ハ株とじし多く 宿虫遠乎平 控繩様下
 もわのせえ斤山剣 以たうとありと日張よな地思
 一正宗 上 正意比 常念ちり乃染海とサせむく唐を

幅と唐く地切ちとさうり 雜板目さうりともさるる
 あり地多さうりじとさ地はしてさうありとれみと梅の
 ぬ乃ありとさうり思と梅利さうりありといふと梅海
 鄭れみよいたんさうりめとて地乃肉ひひくくと梅今
 ふみあり津乃をさるる乃思のよに落者乃路りや
 きよがうじし地多さうり思と梅りさうり思の大れありひ
 らさうりのめはのこれれれ山形ありちりみ乃ありとめ
 細り中見りさうり思とさあまて地は梅思のさま乃
 やささうり思と梅りさうり子思とさあまて地は梅思のさ
 きさあまてさあまのさうり地は梅りさうり思のめを
 勝中一尺のよ下ふあり力ふ解ありれめを 勝中二三

寸のるふわりの飛さむみい天のかりしう内は極く極く
 しかわり。かみせかきねうとんごありと三株まじりして
 三角のむせ。流のこち方し刀ぬと極みよおれ乱
 して大あは打つるあまをそれかまも也。さ刀の中心を
 株元。刀の角はさ刀をせとらう。刀のありくこととや
 たりあつて事極くさうさ刀刀をたに極剣かりゆわり
 なくい極也。極云る林院さ刀のむせ也

一貞宗 えんしゅう 老帝 古刀の極云宗はゆる居其たり
 三株もあり。極板目地をさうとんごありのさ
 と極云宗なり。極みはさ刀とわり極とみたり
 佛せは ぶつせ ば初る本よ極はさ刀とわり極とみたり

極も板目とく腐わく後。極はさ刀なりとさすたるの
 ころ。さ本よ極なりとも思え叙れ也。相列へりてさ
 と極云をさう。是した刀のさの株元。刀の角をさ刀
 横下。刀のせとらう。極もあつて極うなる極なり極の
 極も平のし。極云宗は極なり。極先よ子細あり也
 うとくい。極云宗は極なり。極先よ子細あり也
 目的 うら ことなる。極云宗は極なり。極先よ子細あり也

一廣光 こうこう 九品 極云宗の極云宗は極なり。極先よ子細あり也
 さう。極云宗は極なり。極先よ子細あり也。さ刀の面
 極云宗は極なり。極先よ子細あり也。佛と極
 極云宗は極なり。極先よ子細あり也。佛と極

白くはるまゝよれどありて梅也。玉子を焼くも、あ
佛あつり首あつり。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し

△備前物の大袴 お備前といふ書案と云 右方の湯あふん
ざりけう。襦きり中きり及たう。唐中也。襦きり袖目地色つふ
めけで佛あつりの海や色。乳あつりの足あつりをげつてんやう
めでめへ入地あつりにざりし。虫あつりみまの地切先の内
虫あつりみまの地あつりにざりし。あり。ざり物あつりす。袴字を
四角みでつまの割かんけみ。ドとして先とげめくと
ぐ。梅の浅くして小結あつりをすゞてり。はめく梅の足
小切先あつりとる。やうふつ。まや色。梅乃中あつり尖あつりと患

乃中あつり色あつり。唐括あつり係と。結あつりん。室係。永保の比り梅と
やうあつり。襦あつり中あつり。と。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
三結あつりつゝのたねと係あつりり。又。唐括あつりの比り。佛
のめ。梅あつりあり。と。唐あつりと。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
梅あつりと。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
トて。唐括あつりの比り。梅あつりあり。と。唐あつりと。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
りく。と。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
汗。右袖あつりあり。横あつり汗あり。と。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
と。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し
つ。患あつりをすゞてんを考へ。汗患遠又大括増いかにして
乳あつりをひらげくたが孫細也し

移しをせて打。但此ふくして定まらざる也

一則宗 ^{中上} ち方の漆やそく。這せづく切をうごまやう
お倉中板板目いりまは膚 ^{こが} まう也。地を産まうと
てどぶあまのぬい子乱と梅。み色白。産はあま
わのす子ぬのらまき梅のたとあづべうごし。志
げりまうやうふさううごみえてうくし。こ梅也。佛
とあまのこもいふとま也。げ他乃を乃よ押他あると
も一文字のこもいふあり。菊のすは四分す十六葉あり。
枝もあうらも他乃おまやう。離り ^い くと丁みとや
まて玉ぬと梅よりと梅。地をまういりまてまう。此
さたり。佛 ^ま まうにまう。則宗 ^{中上} ち名宗と打。を乃と

ぬらひうりたる也。松の松とば ^{せん} 帯表目費穴の下
則宗作と打。又まうにまを打ま ^と あり。乃に目費
穴の上あり。今一人則宗と松と打。板治長船 ^う ま
とま ^と ともは腰中と中乱ぬ ^ま やまて。まの産ぬぬ
と梅。また板目いりま ^と 海也。梅お初正板子のお
まやうふ ^と ういり。意 ^{かん} まうら。則宗 ^{中上} ちまう。ぬか
長船 ^と 打。松 ^と 打。

一安則 ^{中上} 建名 木乃の産細く ^そ なる。移せり。板板目
産 ^と あり。地をうく ^と 膚 ^と いり ^と あり。ま ^と あり也。おら ^と ま ^と の ^と 佛
か ^と り ^と あり。お ^と 乱 ^と と ^と 梅 ^と 木乃の ^と 産 ^と 則宗 ^と ち ^と あり
お ^と あり。又乃 ^と あり。今一人安則 ^と

